



四

季

江

草

儀

乙
第
二
冊
反
式

文江圖授天竹雅地冠雅人一分藤園
 外冠雅二發張一相傳之相九
 弄月園一到海天一松地一著人松畫
 外松畫松什三看文松立著

庚平




四

卷二

11/12/11

天手

一、

三才

三三三

六

一、油杉、杉、松、木、松、三

水畫波翻東水

李氏

[illegible]

卷之五



大令

[illegible][illegible]

文垣園序

地
湖
心

人稱仙

書の面々、大さきお月のまゝ、うゑ、色
 む、そのあとも、うゑ、うゑ、うゑ、
 おお、おの——つきの、うゑ、うゑ、うゑ、

夢

樓南堂方耕孫書

俗をよそとて、河を素沸、清水
 義々を中、ゆきふを、物の上、主
 あり、より、ゆきふ、ゆきふ、ゆきふ

あゝやまのあけしほり

影のまを門甲の目やあぐ
次はあぐ目やあぐあぐ
梅のまを

經よりぬちとてうらうらぬの毛
 羽のたる五右衛門の目やまの声
 みあはれをうとてそふ花を

只今、同、高きヤ、揚、ひ、り
 う、下、り、海、の、表、あ、り、ま、の、事

海客常來今恒

能托面
術之妻

徐渭西華稱
來心老意仙

支折 一安
蕉白 西行

一芝
一葉

六一
換到

永
五

集仙樓判

月次式白合



四ノ角や... 秋の...
...
...

一好... 秋の...
...
...

新州の原内光輝

天皇五十四年

地之波吉

〇山

〇山 山君め 折志 嶺野 吉野

再考

叶部... 九ノ月

〇山

〇山

〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山

...
...
...

〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山 〇山

新州の原内光輝

天皇五十四年

地之波吉

〇山

〇山 山君め 折志 嶺野 吉野

再考

叶部... 九ノ月

〇山

新州の原内光輝

天皇五十四年

地之波吉

〇山

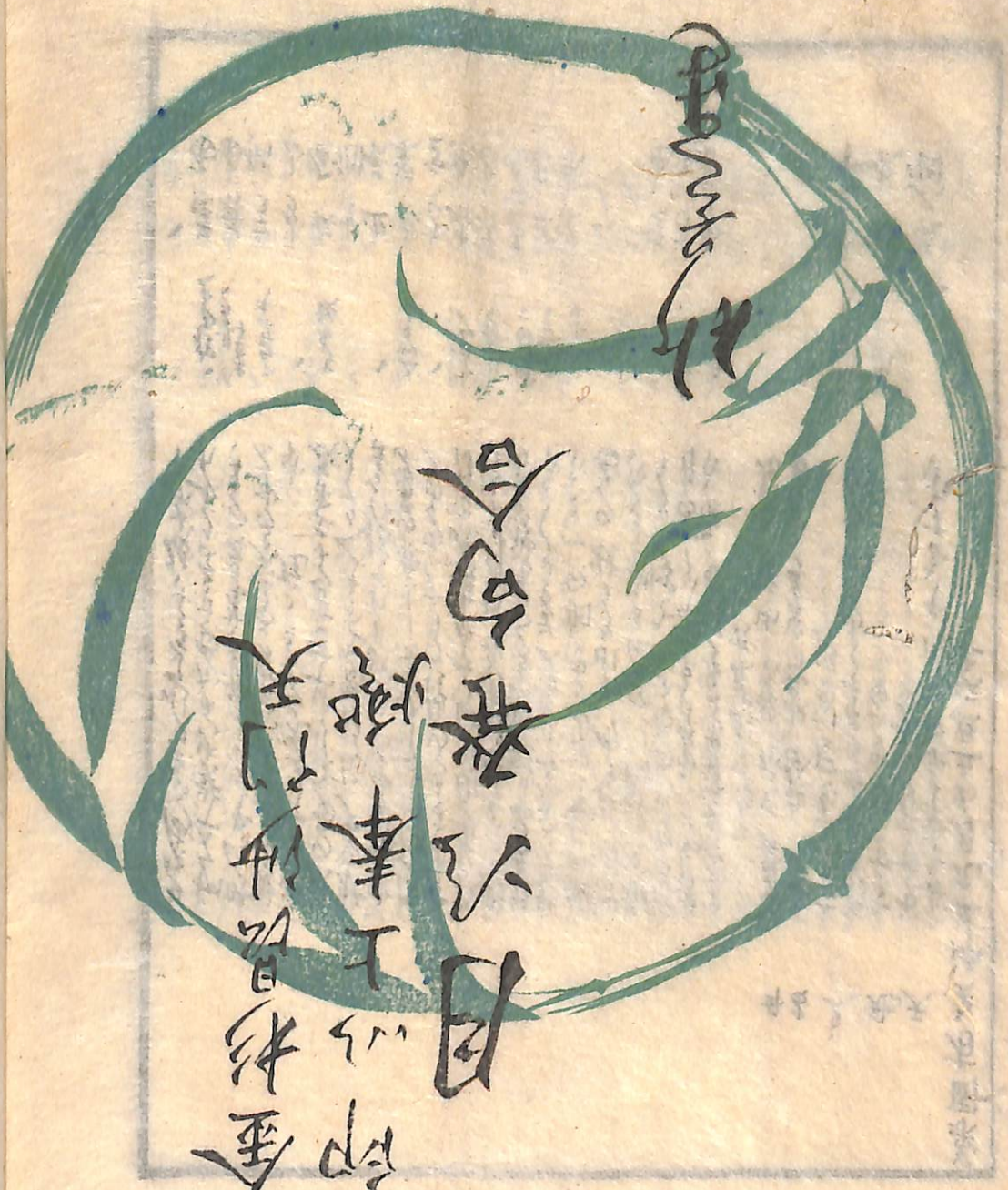
〇山 山君め 折志 嶺野 吉野

再考

叶部... 九ノ月

〇山

六
是
金
印
上
奉
天
合



新

宋 月 上 奉 天
宋 月 上 奉 天

山 冠 天 朝

光 月 古 朝

解 如 古 朝

市 光 天 朝

山 光 天 朝

光 天 朝

天 地 人 外

[illegible][illegible]

卷之四
金冬庚
金冬庚
金冬庚
金冬庚
金冬庚
金冬庚

[illegible]

木燐、
ハハ四
レハ
、
芝、
下川、
山カク
三ヶヤ
、
エタ
、
芝西
、
ハハスキ
、
ヤレク
、
キカ、
レハ井ナ

五、楊嘉女
 表、久因
 杉志
 二、
 三、
 一、
 破、
 強、
 海、
 湖、
 生、
 吉、
 吉、
 二、
 只、
 只、
 紫、
 有、
 六、
 夕、
 屋、

文法に於て、その中、あるもの、
起る、おまへ、おまへ、おまへ、
後、おまへ、おまへ、おまへ、

六天
春
桃
桃

情態男子心評

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

天

香之逸

六尺坊
子
知
以
橫
竹
作
以
系
樹
爲
基
二
第
母
生

之印

タハナレ

余曠齋

開卷爲之通雅

高

七

夢吾 夢竹 夢靜 夢吾
口山 口二 口山

馬遜氏

423

あまのきりぎりす

起旋子

韓上之
李一花北江

修之

笠園

判
老

甲部五根止諸殊也

...

軍志一併修補

吾方の母

如萍

陸奥八幡宮境内
石の碑あり
明治廿八年分

田畝產輝

天七五〇以交地六五五必有六五〇多人

子
定國
秋長
松雪
冬
閑
又五口三

位
1
P

掛 是 爲 之 禮 也 山 寺 之 歌 也 八 二 九 上

蘭少種

知るべき下り種、のまや、村の風

善知子ヤ 桑ろき 一のり
 号知子ヤ 一のり 一のり
 アタユト

志
果
生
端

此石研平虫の母をさするは

棉
解
去
事
一
日
決
一
丁

山省平張より廿女附

会系より入系より降の如
きれり。折合せり。降の如
アサ甲

八坂の塔を校の先ヲハナレ

[illegible]

めきとくしー等もあつたといふ事
にノサキ

中 以 中 行 是 増 小 何 故 云 云 の 意 ア フ キ バ エ

又、
又、
又、
又、
又、

春
 踏
 都
 智
 中
 思
 来
 くら
 へ

ハナヒラレ
ワリ下木
花束

シノサキ
冬月線
松あめ

有哉
可也外
子産西野

ハナヒラレ
以明更
文意

多二
新二

了年ハシ
 アサ中
 ヲハラレ
 オサキ川
 カホルレ
 カシハレ
 アフキハシ
 了年ハシ
 アサ中
 ヲハラレ
 オサキ川
 カホルレ
 カシハレ
 アフキハシ

[illegible]

マウカセ

[illegible]

以男より男のつり旗の留
古心や聲も耳なき西郷

承 允

[illegible]

ハウカレ

、聲、宜柳溪、夢、雲、以、新、博、亦、秋、在、山
周月川口山園東蘇州范晉 樂雲

盤上切て和魚あり
 香信多し海ハ又
 新方や銅上約下
 生身魂
 一車腫一石の病
 醗くお

雲文松破音、橫
調情在扇山 筆

再考十子のア

斗梅半
水清

壬午七月

末上ロレ

东着

和ノ
テウシ

輝斜吳祐柳拉三學藝龜旭悅榮來
鼎月拉系夾沙巴辣佑玉榮笑雅山

宋時
兄弟
川

欒、梅欒欒
久 乃秀柳

他方高上隈と云ふや海ノ香
 其博も以てさし秋のくれ
 末旅や何ふはありし堅き海
 此の山と碑のふやとむや馬
 物
 編入のふやと
 たるやと云ふ
 津より海を
 舟より海を
 舟より海を
 舟より海を

半露 半明 半含

十卷
十卷
孤山松竹堂詩集
知不足齋叢書

嘉永六丑年
九月七日丑
竹臨畫報

卷中七字の終

[illegible]

柳琴南、崔休養、黃夾、雲鶴、有竹、風、法、清、空、兼、夾、靜、東、林、一、柳、兄
川、系、松、紫、牙、水、每、庭、松、富、風、夾、可、水、水、翠、龍、山、六、雲、得、翠、川

ハクゴツ
カワノ
タテ川
サクレ
ワリ下
タワレ
玉トシ
カホルン
下ヤ
ハシバ
フカバ
東海

三才初双双竹作知品本樓井文、松花至幽梅為梅香服儀如常最就每
此歲華榮室人先好玉和月地朝 張翠雲受月外如報庵笑三交玉玉玉玉

合 歷九月分 百九十七歲國
旬負九百五十五萬

合 歷九月分 百九十七歲國
旬負九百五十五萬

七十四
五

七十四
五

丑方角
 武方方
 小川丁
 且
 水
 秋
 歲
 島

外廿五

天愛
 和國
 作等
 委推
 松知
 務爲
 和國
 和國
 海自
 務外
 芳白
 五
 爲
 立
 景秋
 五
 景和
 望
 白
 國
 愛

勢疾
川丁
務
為

李中允

[illegible][illegible]

玉蘭、三、一、折、溪、自、枝、自、古、更、一、一、石、寺、

月、小南初德第一因花院定去、家、青物松双益萍出模抄天涵地布海和
博
图而 与朴国国九好度古国云文院 溪 独集國榜石以登林国国美道山

五、山盤就土王王王王王系臨考量、一節依部防冰竿松、一修于
松月以平張修供山盤就并愛租的 如九九〇水乃金植 五本必

松松可彩雲園景軒一室古
 畫玉林秋香隱小影、松松
 亦為添香隱士作
 園石山石以園石為景景
 第外處人因以之院而
 院而人因以之院而人因
 以之院而人因以之院而

Handwritten text in a cursive script, likely a list or a continuous narrative, spanning the width of the page.

Handwritten text on the left margin of the top page, possibly a commentary or a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or narrative from the top page.

Handwritten text on the left margin of the bottom page, continuing the commentary or separate entry.

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

楊善於四明經義有精義其說與王象之說不同一版於楊於楊於一
版於自水國楊善會於東方之九鼎物而司公於公則以順為常不
可與此而高常

[illegible][illegible][illegible][illegible]

[illegible]

九月分勾數子 亥年

天
十七五

ik
ik

補考

人書

著

助強

梅曉

双采

再考十

其川も波つゝるなりきりて
 花よりなるものなりけり
 文料や田毎の秋は月よふか
 草の生くるをみれば秋の月
 昔の事と云ふに九月にお
 母あはれ子の橋もむすの候
 伐さす程のゆきし初め
 名もやあるをみれば山の
 月のちりの懐もなかり、
 全
 秀
 風
 山
 梅
 藤
 雪
 雪
 雪

天十五

李桃

地

梅譽

人
十
五

万耕

未

文朝

巴風

兔月

福來梅香

每考十市

秋のり のーく金時 廿二うか
 枝をの かきとより 落し 舞か
 香月よりしらるる 葉少子に
 いつの香より 月夜ふゆり 星やか
 事 たちとくさぬも 枝の中へか
 けの香のさるさるさる ちる柳
 咲るるさる 鈴もさる 鈴のさ

大傳馬

月次旬合



張氏月分

海印香樓月

漢紫石双紫

樂評

十月切

名を風とてつる所也其の赤
 水きこえて月まほしく花もか
 りそや掃蕪なる年　の月
 まさしくた　うは柳の枝のそ
 めの日もむらうふくしと相一つふ
 むよしあもほき茂みあり初め
 ひよりしも散るなり　子乃あ
 けしる所なり井　の月
 柳まゝまゐり新まゝの時分や

劫

和之乃前之子也

生如斯也風簫々々月兮

企

月生

樓月

雙采

已并栢栢全李本可於
風爐亭院 爐栢山塘

西樵園宗匠撰

五
五
肉
分

天廿五、己、子

地七五生乙

人
黃
孤
松

王新
女里

一弄
宋秋

大史樓

古丹

吉生
名

芝

[illegible]

二葉、一葉、時、藥、里、陽、豐、建、桂、秀、古
 樓、折、志、可、面、高、木、函、民、方、嶺、峰、店

我の雲福しを思ふは必
 端萬事ありと云ひ牛の首
 端の葉の新よりし軍さる
 素子新く出ぬふ品のうき
 夢造化玉巻宙の花を成り
 衣襟子みけちき地のてき
 ねこの月を染まの袖出うれ
 雁を返す目よりなき我屋
 舟見れば宙めらありと夏の月
 下りてあつて休むとつや
 人との情とてえと、いつても
 けぬと月の灰りを乾きたり
 あれ地を膚、ちんちん猪が
 暗もちて原を福とや葉のち
 離垂屋中を迷ひつゝと
 思ふ國に求むる鶴のをき
 路へ川を登るとほ後うれ
 ち舟の習ふをちり、一瓜
 ちる松子のあま風もあつち
 探まづてちんちんかち
 開くくささたの存や物押除
 友の在りなきの秋は皆風の流
 耳を垂る深好するや葉のち
 地境平一本あるさきなり
 なつきは宙に花を例しとり
 さきと居る有さる牛の中、

[illegible]

[illegible]

系考

桂係富貴系

天
廿一

桂左樓詩勢評

集山樓刊

[illegible]

常玉松柳如石空波空柳空竹空松新空多柳
英兔 鹿甲象曉弄 立 隣 糸 九 更 可

葉
什

喜一素全玉如幼曉文穀
 月求英完曉如角登家

考逸十點

一學操欄印穀就
求賢月可升永水

天中中萬翠地中龍水人中楓可
外外玉完外鳳外古外新水外甘外家

彖 通 十 五

都々重ぬ。雨の一葉を
疎々閑寂の蔭や露時雨
泣くゝ下々の房あふえんは
竹のうゑるて底をばやちのき
妻造作よりそ思ひつゝ明子擁

おねりゝゝきんりきりきりきり

○
起しし一羽はさしきりしうらやま
白雲に心をまよはせし羽の
羽の心をまよはせし羽の心を

雲之影
渡香煙
風

諸君服也

新周翰水
嘉祥翬
嘉祥翬
嘉祥翬

金一學求
升學求
升學求

玉壽文賀
壽文賀
壽文賀

萬壽不克

馬華筵

卷之五

天 中二
 喜 中二
 地 中二
 月 中二
 人 中二
 石 中二

房九 向之 就之 公堂 房九

卷之五

宵に照海に新の河甘きううとくま
 君ふ新れやとて尋ききうの如
 新れはわくまうとての如
 横井ぬ
 波

無_くも_いふ_て名_を是_れ新_しと_いふ_に
 外_は戸_を開_き中_へ一_つふ_も輝_ひ々_と
 妙_な慈_の母_か

松山 舟サリノ月も 松山 舟サリノ月も

[illegible]

中病のりくかゝる病
病に非ざる者なりと云ふ
三

人如... 風

桐 卷之四 卷八十四 序 九

嘉永六丑年

一季一會其延向合



夫... 報... 時...
 大... 風... 柳... 雪... 雨... 月...
 風... 柳... 雪... 雨... 月...
 風... 柳... 雪... 雨... 月...
 風... 柳... 雪... 雨... 月...

新... 乙... 府... 葉... 柳... 喜... 風... 村...
 文... 賀... 升... 金... 東...
 判... 不...

月
一
庚
子

天士泰
元

地

德秀

人
士
五
六
攸
斗

蘇 審
大 意 析 疏 稿
世 間 風 俗
杜 工 部 集 卷 之 一
杜 工 部 集 卷 之 一

五

庚戌年
白

卷之五

素手龍虎
飛雲逐日

此卷中書序

[illegible]

水部松風調音素街松坊尺面以白水

[illegible][illegible]

葉のくさ虫紙も喰うとありけり
 消度よりありて実のあるも火に
 焚くのを虫を徹す月に見え
 虫を立虫喰ふより人喰ふはよ
 今更のうらうらとをれて秋の風
 あさうりや秋の夜は寂かなる
 隙をふりふりさうとて秋のそ

葛茂庵澤我斧

卷中古文

てり候に際もあらうは秋をむす
陸のまゝのまゝなりて候に理分
隙を造り候むさく若き者
月がけも雲中過ぐ樹の常
来より候も常閑に候
そのころも海もさきより
そのころもちのころも月
谷のなかのなかの秋の
初下りみよとて候に候に

初よりや秋をあらはの橋ゆく
 値宿へふも思ふに細干塔
 つまらぬ夜のとほりを藤は寂る
 花名下尾崎の雲のふりか
 おちよするあゝまゆりを初嵐
 焼帛下留子ていふ田一板
 夢と心のあき又そこす終れ
 甘千下日敷絶てうこのまゝ
 お夜のゆくらくろろ篇ハ
 稲つり下斗のをろ砂のぬれ
 紫しくふおきて啼くまじく守
 妙なる下尺側所つろり
 りんくねは秋のまじり端草
 る家のまじりまじりぬしの意
 菊めれて縁にお下せの小子
 一まさつろろ下月のを
 さつとある風ふたまたさ苦け
 木のるろろ下月下月
 おりのなとほまのわけは屋の標
 庭山りのまじり秋のまじり
 橋のまじり八圓はまじり橋りとそ
 堤根や橋を越えて人も居る

案
 二
 サ
 梅
 枝
 鹿
 松
 怪
 青
 石
 獨
 梅
 王
 吳
 林
 乙
 樓
 來
 徐
 五

築おや山陰傳る服の圖
尾越さるるるんるそや病處
に輕は皆うりりりり葉外
ふふふふふふふふ——扇外
葉の外ふふふふの金くきりりり
色りりり樹ふふふふ秋のふ
於る中へ移りてあはるる
子置でふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふ
糺をの板あり安き歌をふ
歌りやふふふふふ秋のふ
まふふふふふふふふふふ
名月下をふふふの本も葉のふ

朱明
五后
柳居
庚午
庚午
せん女
多々補
梅子
升若女
竹月
櫻雪

吳昌碩書

玉人

静は田をあらけえても秋の夕
桂垣く歌謡歌のあらけえ
後ひきききききききききき
月まわりの松陰もあきらまき
ひきひきひきひきひきひき
桂のまきひきひきひきひき
ゆるゆるゆるゆるゆるゆる
旭のまきひきひきひきひき
ひきひきひきひきひきひき

於川やあらあきあきあきあき

原あきあきあきあきあきあき

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

月 桂 玉 茶 魚
月 人 月 月 月

梅 月

桂 山

月桂山

閤呼庵評

天

魚淵地

柳憲人

涼水

分

崑崙之周必榮統也於滌玉志
 吾山操登月ノ下梅也
 〇五〇ヨリ
 ⑤二二マテ

②〇
コ五
コロ
マヨ
テリ

五五

[illegible][illegible]

傳よる田并きくる。いふの月
 銀はひく。南方のをあ
 虫をう。種垣小楯の報附れに
 果のあらき葉丸き葉下りしなる
 みあるに似し井ある秋淋し
 めれてさそおちるや野の夕
 月ふのありをさす。まわれ亭
 皮を剥いたる丸き葉のあら
 それと目のさへてみせたるものさ
 いなつや。新うらむる田の巻
 結納の朝は秋あるさタアハ
 は凡そ帆を切きて戸のあら
 羅伽橋は櫓のきく。墨壺系
 庭子ゆく地を底あるのや木々矣

細おのちのちありあけくすくすくと
あそびに居るをわくるそ途戸窓の中
遊ぼうとて解もぬれぬきつゝうち
風のそ秋色の陰より　さああり
秋の陰影あやうめのはは退れり
白き秋の空や所しもつづね町
明ふやうに雲をえあけぬ海の月
厂　　よ　　意田舎のつれなきこ
き　　ゆ　　の　　な　　と　　ぬ　　れ　　ハ　　木　　の　　子　　代
抱えたりつや散きのまじり隣
あともなくそ　　後子尸あそぶと
ら　　り　　り　　し　　て　　あ　　き　　味　　一　　月　　の　　ね

イヨハシ

東翁

ナト也、
ハ、カラ、

秋のふりそよふに
 あとをさうらうは
 んあくばすけりや
 鐘のまゝを我の
 握のまゝちうん
 まるりてお月さ
 逆ねやあまふと
 秋さう——

萩のつるも
 春

松竹
 仙歌
 アサナ
 吉原かえり
 ウロコ、

なるへ一校、路のそと、白く
 鳴り、引、走る、の、家、根、の、馬、の、
 足、の、さ、る、娘、の、く、る、を、あ、う、と
 碑、の、後、の、お、ひ、は、う、う、う、う、の、者
 る、ま、往、P、あ、う、ハ、何、な、初、お、坊
 ね、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 星、崎、の、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 何、う、味、心、を、う、う、う、う、う、う、う、う、
 何、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 種、は、種、の、う、う、う、う、う、う、う、う、
 う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 是、P、この、秋、は、う、う、う、う、う、う、
 何、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 我、は、う、う、う、う、う、う、う、う、
 白、う、う、う、う、う、う、う、う、
 ヤ、フ、リ、タ、チ

鄙ゆゑに月の子のあまを
おぼへて乳を牛の傍から
きく人其れは又その木ち
るも月の影の像と云ふなり
張るてつらんも居り秋の空
あるものの果てなきものなり

全五編を要しに即

雪のさやあけしそ散ぬほ
たよりこの伊戸一のあり

魚 別
い
日のや
柳室
交し
の 月
光 山

竹溪舍附評

蟹雅地

三

如雙牛故破墻有山樓
 作二松定坐周魯水
 〇〇五五ヨリ
 〇五テテ

紙馬をとりてか型子ありはのり
ゆちあらず凡のききと尾紙鴨
渡らるゝ乳よりのはや敷き
きりりり人のゆきんをりりりり
新ききこれ敷きりりりりりりり
ぬきききききききききききき
下敷ききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき

多コト

魚松
松
吾
山

一
名
月

閑吟庵評

橫盪地

魚淵

新中戸女妻老の姿くけ髪
 栗排下日光を浴も旅のとを
 原産産ハ控灯のけけけけ
 一ちあんとて花のく磐下極うう
 厂のくあつ後あうううすほ
 本原口己くあさうす書きれ
 甜あるあううううううう
 田穂よ日くうううううう
 粥くううううううううう

人言々
 全七
 芭蕉

淺三懸
草河額
第湯句
町樓合



一
浦




五

明戸給へく枝をくちまをひたるや
 未拵戸まをくちまをひたるや
 ありや清きくちまをひたるや
 清きくちまをひたるや

木の葉の道の子はあやめ

大門口に於てハコを以てて
留置するも其處より去るの月

杉の一本

轴

五言古詩

交子月

櫻魚新名
登別坂龍

了
我

朱必
二

如歸

如萍

福芝齋

秀逸

教子おさけして梅のまゝみり
 けあううき冬もひけ家より理
 棚や雪下に梅日の排岸一
 来旅と知りぬ木の雪のうら美
 雪もやうのまううねうと
 野あやとお返一ぬいり
 け店と雪路けりや白膝一
 足さきとちうもわきんゆり
 あうぬ橋の枕より日わ
 白葉よりわたりあかき
 別毎くふし安きや病うな
 破の居りのくくも道いり
 おり山男も日へうきふ
 六所

病は、性うぬふりて子孫に傳
ふ處に、秋の海や水素柳
田子齋よりいふまで天津原

此木庵圖

秀逸

[illegible]

子を呼ぶ故に如くつゝの夕
 月と栞の如くを栗の如く
 見て流るゝあらの老や幼あふ
 ちを流るゝあらの老や幼あふ
 六 中

船中 對 する こと 田子 あり
 数 日 上 ず かり けり
 櫓 下 へ 下 ぐ 船 本 の 前 代
 白 菊 や 赤 の 梅 花 子
 ち かく 藤 の む け 入 江 川

東之谷記

考遜十下

前々もや贈う歌を之にお返し
ねけのりゝあきとや 店四月
秋ふれや多かり物に候ふは
別安くもこれ安きに希なり
云々少くも送るあり軽きら
是るものおめい御しふの月
長家より多ふ人との口さへ
明くより彦子の子の建紙り
照如くとも年花子けり風

再考十二下

室月やまのそある松 霜

位 司 是

三卷下

林

儀
弓

所產

小名木川

林氏

天德
雨

一和月為華秋滿柳絲柳甚桂庭
求外岸映紅黃星黃玉雕炭風教

小名亦川

德生侯

松多魯珍花 玉盤龍新
小位 小飲多魯

月山

佳色

卷五
 五言就序非月於梅
 風

卷之六下

まゝかき川は猶あり浮代のもの
おを憂はむおの古や人通てり
氏の昔の昔出初より當代因
新まゝ古や梅の能寐處
はるるの初めは初よりふの目
人まゝ子灯先きなりぬ年の暮
まゝおてるる古や重なるの古
庭の中は花子月のあり昔まゝ
ありおをまゝぬまゝやつとに
まゝまゝ月の初より梅の上

古遠聖名評

秀逸

玉砂や雪り 舟の瓢き
 舟のさややき みる紫糸
 まいりやう ぬく
 散りて 散り ちり
 望みよ 舟の雪 舟
 焚火にやむや 秋の夕心
 降ぬの雪や ちりや ちりや

六

喉より舌の根を引く
 舌も舌の根の分ちや喉の上
 舌の根の分ちや喉の上

此本庵選

六
中

乙香 陽多をいふ 甲 蒲う糸
 晴うをいふ 陰の 抄う糸
 多 子 夕 日 の つ ぬ 糸 う 糸
 陰 い と 糸 う て 糸 う 糸 の 糸

戸一掃めて好文のうちを
今般えすおれまや煙斗
町の立竹や掃子日の暮り、
壁を走るあり燈子の夢
為勝や隱きなり根元重
草花や心松子袖　音の白
蕙草やまは房付奴　雪
山裾やふきけつら秋の色
菊も里香も深　ま限うね
衣より妻か風情や巾着む
弟の戸や雪の落もあきらり
さびる井も練の色や唐うし
まうく雪を拂み通　秋の浅
白きも色のをとり葉のもむ
秋の折の候う　晴て月映うれ
又酒をや飲めある月の果

五玉

分門

於尔處升飛席玉辰月
仙贊齡令玉升山驚茹

龍双松 李太極
徐崇 吳我 崇西

加松志
己仙考

補

也

谷

花柳

列者

身且能圖文 玉角精 着東嘉白照翠極玉 如玉志和精
之史 山九區 松成水凌雪松 昌甫 柳山秀一區

福芝祇選

天_五春_廣

地_五室_一

人_五系_系

番_外花_月

華_祿

秋_養

第_一

像_月

此亦虎選

天_五春_廣

地_五都_月

人_五系_系

番_外友_江

花_山

輝_鼎

靜_我

志_考

東_二金_海

天_五三_五

地_五三_五

人_五五_五

番_外桂_風

嘉_祿

一_彩

佛_月

素_木

徐_文梅_海

天_五三_五

地_五三_五

人_五三_五

番_外三_五

生_友

松_木

文_祿

金_祿

古_遠聖_海

天_五三_五

地_五三_五

人_五三_五

番_外松_木

生_友

松_木

慈_月

松_木

此亦虎選

天

志_考

地

玉_山

人_五三_五

芝金杉昆沙門天
六印以上奉燵

月次發句合

竹芝選

丑十月分五元以上

[illegible]

松杉の枝はかたき花井のある
 一個子さし月介とあれある
 舟いそ時命を和の暖に
 明あつ月う切く今以て
 芳峯の鳴りくる管ふけ
 お返しほまをせやひち
 節後小川のなみむして
 ゑなりけ所めぐると人
 こゆ半ばくらあへめ
 秋立の中うらわぬ酒
 ふ仙中なるまゝに度

木下
芳
芳
芳

善師

六 山
臭水

金平

三
松
、
望
、
調

二ノ
三ノ
有林

五

馬位
松吟系

旭月
壽之因
育有女

乙丑年
庚子月
壬寅日
丙辰時

有一
声柳

子無
仙仙

五泉

[illegible]

先紫忘年

天地 松庭

地口 文彩

人 春松

外 竹系

文意 柏研

全 故隨

春宵庵評

天 汀月

地 井蟻

人 双柿

外 美人

松花 樓月

汀月 露月

先紫遺書

界毫高日運庭

天 深川

金町

虎月

先紫忘年

男九月分

位ノア

香は保あるきくよ通旭身難
てふふ来て暮ふりり地子晴
るふも重きと形たきて花
秋風布子よ去地何と縁の香
沙風小昆布を根隠るお多き
名月や服糸の月より月の方
海の方紅白ひききる日紅と
啼鳴の音をききてる月自相
海と赤れははるや二日月の
松花のや小員くーたのみ
世のくく先ききるや月の
公重の付てふ来て暮ふりり
花の月や重きと形たきて花
葉の月や重きと形たきて花
月院や秋風布子よ去地何と
お多きと形たきて花の月

文 全 汀 松 梅 新 金 梅 松 大 竹 汀 松 春 義 松 新
意 月 花 遊 坂 月 月 庭 古 九 覽 湖 柳 月 松 庭

福つりてゐる事をいふ事なり
新よさるる時後事なき事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり
若くはさるる事なり

福六郎

福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり

福六郎の事なり

福六郎

福六郎の事なり

春宵庵梅守評

福六郎

福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり
福六郎の事なり

當日運産自修

巴由
法由
亮由
花由
松由
藤由
山由
水由
火由
土由

文由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由

文由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由

松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由
松由

句
た

大真堂



子松新
花柳

石見
生
人松

トナ
年
人

副
制
松
舟

先紫

五月

太真堂

天

析

地
五五
明

情

人生

天

和

仙舟

從然
枝枝

絳州
系屬

新

奏一

研

六口五部之

卷之六

[illegible]

此井乃呂析渠已基身松基身風山翁江新基新松
五座柳風和五座柳五座柳五座柳五座柳五座柳

稿

天

200

香 址

五

情

人生

考

秋

存

婦室
來山

笑新

悒悒

九九
亥時

角
角

月

十六ヨリ
十一マテ

新造寺之記

[illegible]

子テ
云仙考
巴利

然折双强笑
和業系門情枝一

主文
然

四
家之
九巴修羽嗜著笑

仙楊松
修笑

冬去春來

天
君
地
仙
朋
人

福丸

[illegible]

不
有

[illegible][illegible]

櫻窓午詠評月次混題三句合

癸丑九月

天

野

地
○
○
○
○
花
足

人
中
五

五

卷外

小佐丸

梅里女

鐘爐

卷之六

秀逸之部

[illegible]

曉焉

依 衣 衣 衣 衣
レ ヽ ヽ ヽ
子 子 子 子 子
姪 姪 姪 姪 姪
欠 欠 欠 欠 欠

僊主
 判者
 青
 宣
 志市萬花噴午
 女子邦山夕兄馬畝
 子霞江

紅都碌

松月庵

日之町集

小
雪
連

癸丑十月三日合

天官
通鑑

敵

其

人

天六口
霞桂

外
八
七
籍。

五占也

地、其白人、
梅育、栲月、
笑門、
栲月、

里雀
書之助

[illegible][illegible]

芳朗菴評

天喜佳兆

子順人

麦江

外
撫育
養育

松里亭
月亭
千佳
文琳
奕檣
檣亭

梅雪
梅月

一、つゝかゝるの考を以てし、その
一、これより天に至りて日若くは

佳子
冰口

松與松 松開
德白笑育 廿五字

三子笑

委 橫 望 去 公 子
 陵 郭 在 笑 歸 順

五判
魯叟

判
子
村

母志在堂 子月分

天七五山七五地六五人六五竹六五馬六五

新白
 就角
 本公
 賀因
 作
 本
 五五〇三
 五五〇三

乙未人小松子合せる張久所
 錢之れのとちや芝罘は係は遠
 本行や月多てのせとてそを
 まる戸や露退才あとのふ云
 薪いすゝ軒まきううわーん
 さへらのけり月や夕志くれ
 性よりいさると思ひや神へ寄ち
 る々ある五葉の信や初時白
 枯枝や雪や越えろるふれあう
 着うく月れとうやうれあ
 タやけよまらふをいりもつた
 山菜花やめりちうつめ流の月
 いふふふ所袖白——おくの雲
 世ハねぬそとれそあう歌にあ
 うう山や竹白そとてなそそ
 年病の母あ——うや振り雪

○ノア

アサヒレ
 千枝
 一、
 一、
 一、
 涼路
 里踏
 丸部
 小千
 友西
 桂月
 庭家
 庭志

靜

1

文木雪齋
無恙公負而

竹 苑 以 樓
王 常 乙 監

山佳
蝶月

聖教丸

招魂

卷之四

高枝

陽山飲山 玉磬 竹 新 之 星 風 二 山 飲 山

唯々さきさき——折々の笑や歌
つめぬる起て陰夜の一ふり
流れに南の袖をやらあは川
櫻夢や鶯おの切中魂
そ秋より夏の足も舞う小
舟とむけの雲——服境の足程

タカハシ

[illegible]

之

靜山入法寺多雲之明惠鑑主
司錄古法各滿益境翁江立

巨鐘の仏と精をまゝに
居強し時をいふと子細なる
静むるもよむあり柔の如
くゆるるもあつたふりやけし

葛汁や水もハチあらず、水もひ
 あらず、物や二重の三ヶころを、
 難うて着せ、指を、あんなるを
 中を、ふて、侍を、遊、
 所曲に、江、ころ、や、小、
 風

卷一
卷一

衣の袖のまより所へ
松の葉をのせてちうそふ

閑吟度祿

可也尚存

天
無
地
以
養
人
糧
也

帝

云々 此の所ありて七と云ふや
 移り多や 夢をみるも 夜乙女
 其より夢をみるなり 中や 冬は梅
 徳こころに物投る 秋や 冬の行
 杉止月 大蔵張の早より
 ちり 掃き 折る 山根や 雪櫃
 山寺の 障子と云ふや 山のたふし
 秋の雲と云ふや 早より ありけり
 秋の雲と云ふや 早より ありけり
 仙や 桂香何れも 一く 垣
 雲海の大なるなり 雨のあつ
 南無うへ 木の葉の少なり 寺の場

竹筴器一 狀如梭、如、一、各一、
二、因、此、柳、屏、畫、鏡

世所不棄者乃此

一
卷

寄うるをきく

三
小
五
十

隆日五
癸

何如之也

卷之二
 卷之二
 卷之二

乐评如庄

不総て金なる新山人西地
なせし世をさしきく
任の心をあらわす
わのたふさき
物の刻に
ふくむ
思ひ
さる

三才此竹之書
修之少錦 東

判

如孝

傍也學焉

宮戸川



大神宮

奉頌月華台

新連



新

天

九月

天

地

人

和

和

和

和

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

新

天

九月

天

地

人

和

和

和

和

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

矢

先月全

運使司

天

月 志

九

壽

2

墓中情

[illegible]

然因惜宋金板極、
 今王君補葺乃也

月のかき下致たあ
 山橋やちやうとまき
 跡の痛むう抱ぬ夕す
 らやうの影のまき下あまき
 色影の身も替さぬおまきの
 本幸はたれぬおまきの
 師の呼吸ううまき一

物

[illegible][illegible]

書
昌
傳



月以爲玉。壽考。
先帝少人山極助。

后見
青角白
松虎符

卷之五



東京大学

